

基準 2 . 教育組織 ( 実施体制 )

( 1 ) 観点ごとの分析

観点 2 - 1 - 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

( 観点にかかる状況 )

- ・本校は、昭和37年に電気工学科、昭和38年に機械工学科が設置され、わが国基幹産業界の最もベースとなる現場技術者の養成を担ってきました。以来、時代の変化に対応するため、教育内容の充実を積み重ねながら今日に至っています。( 資料 2 - 1 - - 1 )
- ・現場技術者の養成を担う本校は、平成15年 4 月、情報技術の進展と産業の海外進出に伴う国際化に対応するため、新たに「国際コミュニケーション情報工学科」を新設しました。また電気工学科を「電気情報工学科」に名称変更し、教育課程の改編を図りました。
- ・旧電気工学科は、昭和63年、科学技術の進展と産業の変化に対応するために、情報工学関連科目を大幅に加えると共にコース制を導入し、電気・電子工学の分野全体を体系的に学ぶ「電気電子工学コース」と電気工学を基礎にコンピュータ関連技術を中心に学ぶ「情報工学コース」を編成してきました。平成15年度の改組は、「情報工学コース」を基盤に実践的な英語コミュニケーション力を養成する国際コミュニケーション情報工学科を設置し、「電気電子工学コース」を基盤に進展する情報技術に精通する現代の電気電子技術者を養成する電気情報工学科に名称変更したものです。
- ・各学科の目的及び概要は、( 資料 2 - 1 - - 2 ) ( 資料 2 - 1 - - 3 ) ( 資料 2 - 1 - - 4 ) の通りです。

( 分析結果とその根拠理由 )

- ・本校の教育目的ならびに組織は、学園の建学綱領を具現化し、社会に貢献するため適切な構成がされていると考えています。

( 資料 2 - 1 - - 1 )

「金沢工業高等専門学校の沿革」

昭和37年 4 月 1 日 金沢工業高等専門学校開校 電気工学科設置	昭和 63 年 4 月 1 日 電気工学科 1 学級増	平成 8 年 4 月 1 日 マルチメディア考房開設
昭和38年 4 月 1 日 金沢工業高等専門学校 機械工学科設置	平成 2 年 4 月 26 日 工学基礎実技センター開設 ( 現工学設計教育センター )	平成 9 年 4 月 1 日 創造技術教育研究所開設
昭和43年11月 5 日 穴水湾自然学苑開苑	平成 3 年 4 月 1 日 新校舎完成	平成12年 4 月 1 日 工学基礎教育センター開設
昭和44年 1 月16日 情報処理センター開設 ( 現情報処理サービスセンター )	平成 5 年 7 月 8 日 夢考房開設	平成 14 年 12 月 17 日 ニュージーランドオタゴ・ポリ テクニクと協力協定覚書調印
昭和48年 9 月21日 扇が丘診療所開所	平成 7 年 4 月 1 日 人材開発センター開設 ( 現自己開発センター )	平成15年 4 月 1 日 国際コミュニケーション情報 工学科設置
昭和57年 6 月 1 日 ライブラリーセンター開館	平成 7 年 5 月23日 シンガポール理工学院と協力 協定調印	電気工学科を電気情報工学科 に名称変更
昭和58年 6 月 1 日 基礎語学教育研究所開設 ( 現基礎英語教育センター )	平成 7 年 7 月 12 日 米国セントマイケルズ大学と 協力協定覚書調印	平成16年 2 月 7 日 ニュージーランドオタゴ・ポ リテクニクと協力協定調印

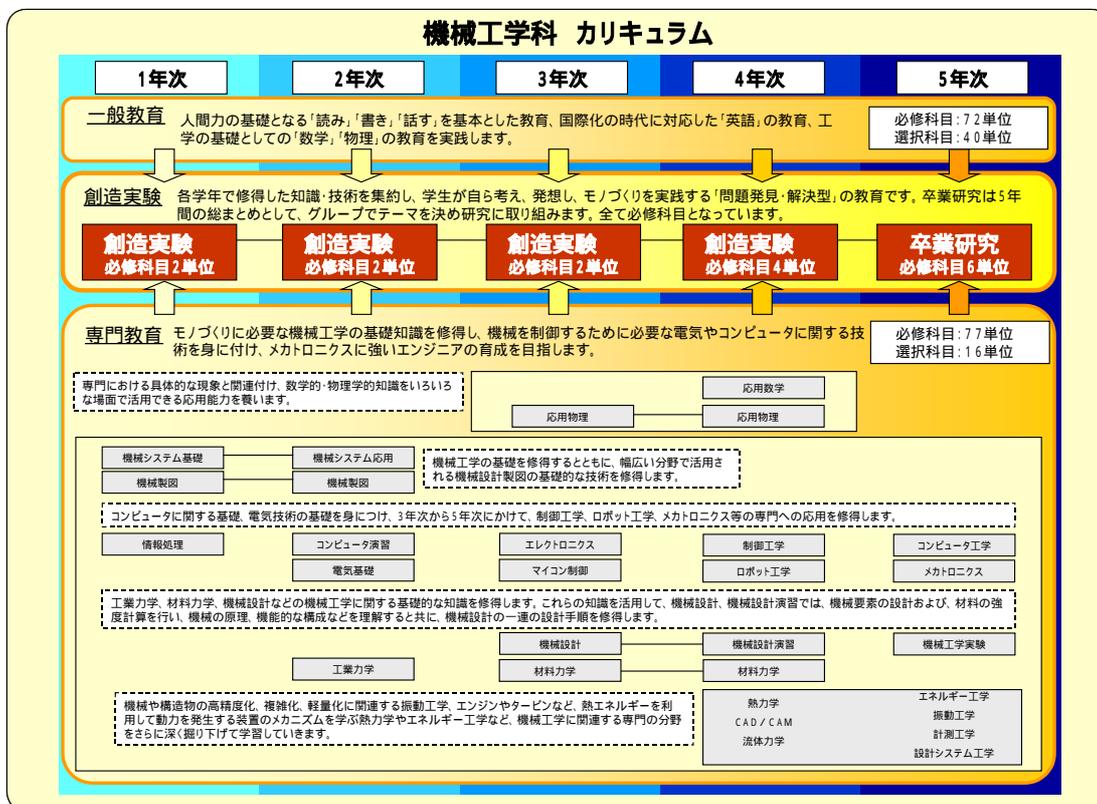
( 出典 「学生便覧 2005」P.5 抜粋 )



(資料 2 - 1 - - 3)

「機械工学科 学習・教育目標」

モノづくりに必要な機械工学の基礎知識を修得し、機械を制御するために必要な電気やコンピュータに関する技術を身に付け、メカトロニクスに強いエンジニアの育成を目指します。



	1年	2年	3年	4年	5年
一般教育	国語	国語	国語	国語	文学 2
	日本史		世界史	地理 2	科学技術史 2
			政治経済	環境学 1	哲学 2
				心理学 1	心理学 2
				修学技法 1	デザイン概論 2
	基礎数学	線形代数	線形代数		数学特論 2
	基礎数学	微分積分	微分積分		倫理 2
	物理学	物理学	化学		
	保健体育	保健体育	保健体育	保健体育 2	
	芸術			総合英語 2	
	総合英語	総合英語	総合英語	英語表現技法 2	英語資格技術 2
	英語スキルズ	英語スキルズ	英語スキルズ	上級英語 4	上級英語 2
		世界文化事情 2		ドイツ語 2	
	世界文化事情 2		中国語 2		
人間と自然		人間と自然		人間と自然	
創造実験	創造実験	創造実験	創造実験	卒業研究	
専門教育			応用物理	応用物理	
	機械システム基礎	機械システム応用			
	機械製図	機械製図			
	情報処理	コンピュータ演習	マイコン制御	ロボット工学	コンピュータ工学
		電気基礎	エレクトロニクス	制御工学	メカトロニクス
		工業力学	材料力学	材料力学	振動工学
				熱力学	エネルギー工学
				流体力学	計測工学
			機械設計	機械設計演習	機械工学実験
				CAD / CAM	設計システム工学
		材料加工 2		機械工学演習 2	機械工学演習 2
					機械材料 2
					先端材料工学 2
				生産システム工学 2	
				ビークル工学 2	
			インターンシップ 2		

… 必修科目

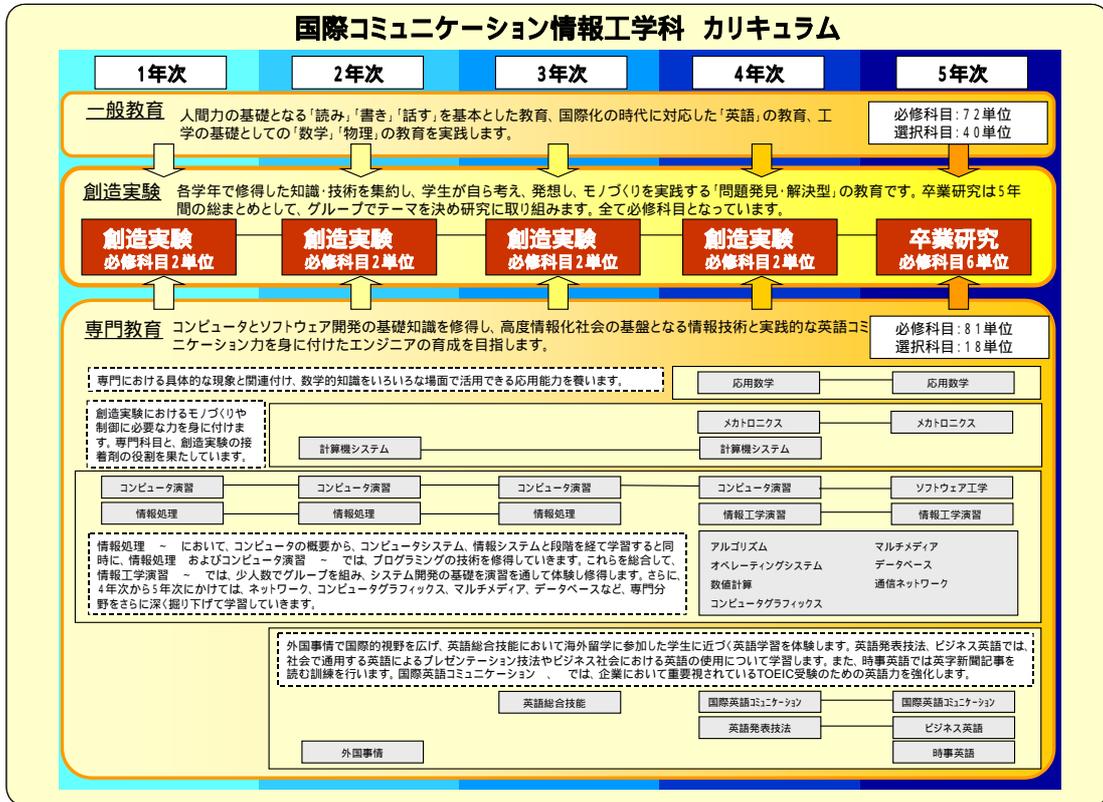
1 … 選択科目

数字は単位数

(資料 2 - 1 - - 4)

「国際コミュニケーション情報工学科 学習・教育目標」

コンピュータとソフトウェア開発の基礎知識を修得し、高度情報化社会の基盤となる情報技術と実践的な英語コミュニケーション力を身に付けたエンジニアの育成を目指します。



	1年	2年	3年	4年	5年
一般教育	国語	国語	国語	国語	文学 2
	日本史		世界史	地理 2	科学技術史 2
			政治経済	環境学 1	哲学 2
				修学技法 1	心理学 2
	基礎数学	線形代数	線形代数		デザイン概論 2
	基礎数学	微分積分	微分積分		数学特論 2
	物理学	物理学	化学		倫理 2
	保健体育	保健体育	保健体育	保健体育 2	
	芸術			総合英語 2	
	総合英語	総合英語	総合英語	英語表現技法 2	英語資格技術 2
	英語スキルズ	英語スキルズ	英語スキルズ	上級英語 4	上級英語 2
		世界文化事情 2		ドイツ語 2	
		世界文化事情 2		中国語 2	
	人間と自然		人間と自然		人間と自然
創造実験	創造実験	創造実験	創造実験	卒業研究	
専門教育				応用数学	応用数学
				数値計算	
		計算機システム		計算機システム	計算機システム 2
				メカトロニクス	メカトロニクス
	コンピュータ演習	コンピュータ演習	コンピュータ演習	コンピュータ演習	
	情報処理	情報処理	情報処理	情報工学演習	情報工学演習
				アルゴリズム	データベース
				オペレーティングシステム	ソフトウェア工学
				コンピュータグラフィックス	マルチメディア
					通信ネットワーク
		電気電子工学 2		電気電子工学 2	情報理論 2
				英語発表技法	ビジネス英語
	外国事情		英語総合技能	国際英語コミュニケーション	国際英語コミュニケーション
	日本文化 2			英語総合技能 2	時事英語
				英語作文技法 2	
				英語討議技法 2	
			インターンシップ 2		

…必修科目

1 …選択科目

数字は単位数

観点 2 - 1 - 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

該当ありません。

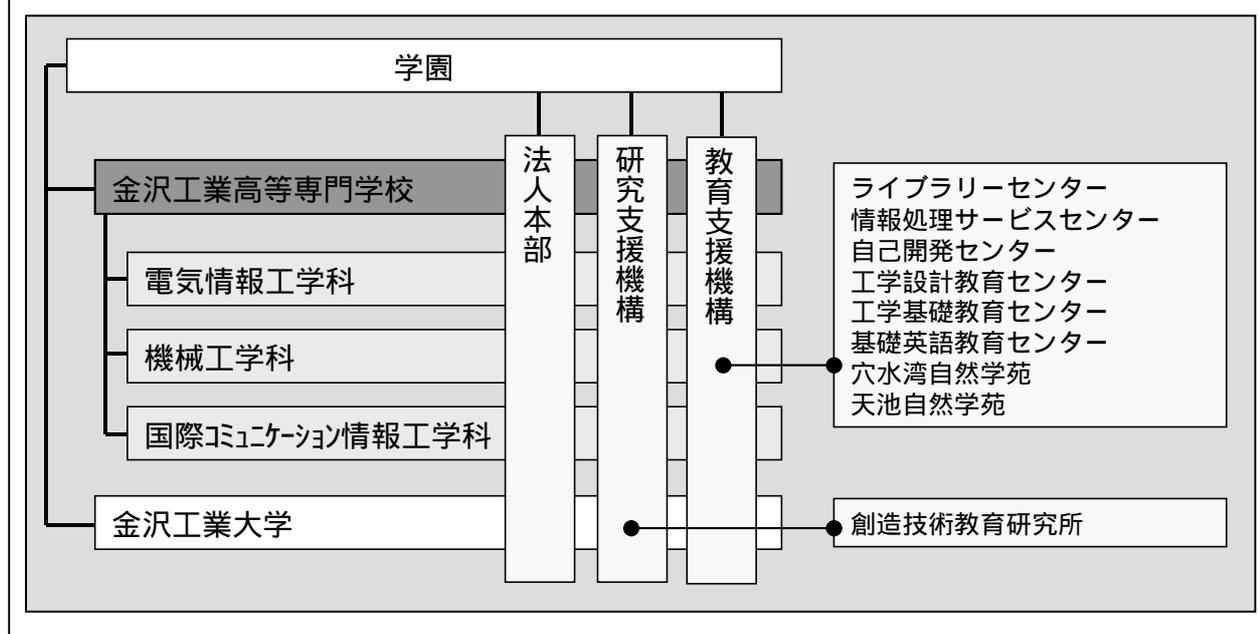
観点 2 - 1 - 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点にかかる状況)

- ・ 学園に教育活動の振興を総合的に推進し支援する「教育支援機構」および研究活動を推進し支援する「研究支援機構」が設置されており、その運営委員会に校長が出席し、学生の利用等について適宜意見を述べることとしています。また、両機構の運営には、本校教員が所属あるいは兼任職として係わり、教育・研究の目的達成に貢献しています。(資料 2 - 1 - - 1)

(資料 2 - 1 - - 1)

「組織体制図」



- ・ 教育支援機構について (資料 2 - 1 - - 2) \ (資料 2 - 1 - - 3)

教育支援機構は、学園全体の教育の振興を図ることを目的として、大学、高専における学生の正課・課外の学習を支援しています。本校においては、学科、各部会といった組織的な取り組みの中において、教育支援機構の各センターとの連携を図り、学生への学習支援を実施しています。

教育支援機構においては、月 1 回「教育支援センター連絡会」を開催し、各センターの活動状況の報告が行われ、センター間の連携や運営委員長による活動報告に対する評価のコメントがなされています。

(資料 2 - 1 - - 2 )

「金沢工業大学教育支援機構規程」

(目的)

第 1 条 金沢工業大学教育支援機構(以下「教育支援機構」という。)は、本学園に設置される教育支援組織の行う教育活動の振興を総合的に推進することを目的とする。

(事業)

第 2 条 教育支援機構は前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 学生の自学自習支援
- (2) 学生の技能及びスキル向上のための講習会、講座等の開催
- (3) 学生の資格取得支援
- (4) 教育支援組織の組織化と支援
- (5) 学生プロジェクト活動の組織化と支援
- (6) 教育関連情報の収集、整備、充実
- (7) 教育研究活動の振興
- (8) 教育研究活動の公開
- (9) 情報インフラ環境の整備、充実
- (10) 実技教育支援のための技術員派遣
- (11) 学生、教職員、卒業生の生涯学習支援
- (12) その他、前条の目的達成に必要な事業

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.140 抜粋)

(資料 2 - 1 - - 3 )

「金沢工業大学教育支援機構教育支援組織規程」

(目的)

第 1 条 この規程は、学校法人金沢工業大学管理規則第 13 条第 1 項及び金沢工業大学教育支援機構規程に基づき設置された教育支援組織(以下「教育支援機関」という。)全般についての組織と事業の適性を期すために定める。

(使命)

第 2 条 各教育支援機関はそれぞれの組織において定められた目的に従い、教育への積極的な支援並びに教育の社会的使命の達成に努めなければならない。

(教育支援機関)

第 3 条 金沢工業大学の教育支援機関は次の各号に掲げる教育支援組織をいう。

- (1) 情報処理サービスセンター
- (2) ライブラリーセンター
- (3) 工学設計教育センター
- (4) 工学基礎教育センター
- (5) 自己開発センター
- (6) 穴水湾自然学苑
- (7) 天池自然学苑

2 各教育支援機関の事業については別に定める。

(構成)

第 4 条 各教育支援機関は次の職員をもって構成される。

- (1) 所長、館長、苑長
- (2) 次長、副館長、副苑長
- (3) 教員
- (4) 技術職員
- (5) 事務職員

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.141 抜粋)

## ライブラリーセンター

(授業との関連における利用)

教員は、授業に関連する参考文献をシラバスに記載するなど、学生に積極的に紹介することで利用の促進を図っています。(資料2-1-4)(資料2-1-5)

(資料2-1-4)

「本校学生の各センター利用実績」

本校学生の各センター利用実績(年間延べ人数)

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
ライブラリーセンター(図書館) 入館者数	42,010	42,648	38,481	36,516	49,344	44,367
自己開発センター利用者数 (資格試験申込者数)	299	988	813	947	963	863
夢考房(モノづくりのための作業環境) ライセンス取得者数	641	731	338	481	485	299

さらに、問題発見解決能力を養うハンズオン教育の支柱とする「創造実験」や「卒業研究」等の授業では、学生自らが情報を収集し解決策の糸口を探るため、ライブラリーセンター(LC)において情報収集するように指導しています。

LC2階フロア「教科書コーナー」は、高専5年間の学習内容を確認できるように、教科書はじめシラバスに記載されている参考書が学年別に整備されています。また、授業の事前準備として関連資料の学習や、授業後の学習内容の再確認を行うためにその教科専用の図書を準備し、学生に利用させる「リザーブブック制度」システムがあります。各教科の授業内容に応じて必要資料を複数冊準備し、教育効果を高める仕組みがあり、本校では平成17年度から、文章読解能力、鑑賞力の向上を目的にこのリザーブブック制度を利用した取り組みを始めました。さらに、「高専英語図書コーナー」を設置し、イクステンシブ・リーディング教材としての「PENGUIN READERS」等を揃え、英語教育を支援しています。

LC館内には、資料検索端末が18台設置され、学生が自由に検索できる環境が整備されています。LC高層階分野別フロアは、機械工学系、電気工学系、情報工学系等専門分野を考慮した排架フロアとなっており、さらに図書ラベルは各フロア別に色分けされ本校の学生にとって利用しやすい環境となっています。

(教室としての利用)

少人数での英語教育を実践する場として、授業(「総合英語」、「英語スキルズ」等)でグループ閲覧室を利用しています。大学の学生も利用するスペースとなっていますが、本校の授業を優先した形で、スペースの確保を行っています。

(創造力を養う空間として利用)

LCには、図書館としての機能だけでなく、デジタル技術を活用するモノづくりの場(マルチメディア考房)としての機能も有しています。このマルチメディア考房では、文字、映像、音を組み合わせたコンピュータグラフィックス等さまざまなデジタルコンテンツを創作することが可能となっています。現在は、クラブ紹介や高専祭等、各種行事で用いるポスターの作成での利用や、インターネット端末を活用した情報収集といった利用があります。

(サブジェクトライブラリアンについて - SL活動の指針より)

サブジェクトライブラリアン(SL)制度とは、大学の各専門分野を代表する教員と本校の

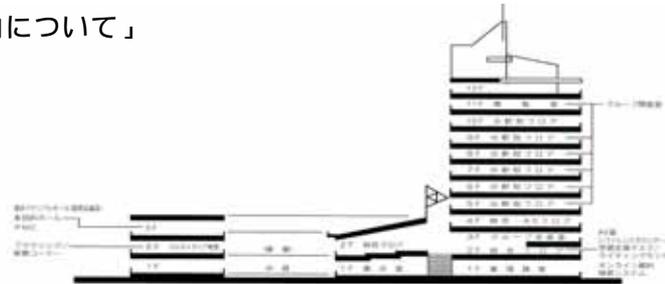
代表教員から成るチームが、大学及び高専における学習支援プログラムの企画立案を行うと共に、学生に対して充実した学習支援を行うものです。基本的役割については、以下のとおりです。

- (1) 主題（専門分野）情報専門家としての役割
- (2) LCの企画スタッフとしての役割
- (3) 教員、学部生、院生、高専生等に対する、LCを用いた情報入手や研究、教育上の情報利用の啓蒙
- (4) SLとLCスタッフ（Library Staff: LS）との協力によるLC所蔵の研究情報、教育情報の性格や質の評価および向上とその入手方法や適切な情報サービスの在り方に関する企画検討

こうしたSLの役割によって、本校とライブラリーセンターの連携が図られ、先に述べたような正課・課外における学生に対する充実した学習支援を提供しています。

(資料 2 - 1 - - 5)

「ライブラリーセンターの利用案内について」



金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LC)は我が国の代表的な工学専門図書館として構築され、その規模の大きさや高度な各種機能は、国内はもとより世界各国から注目を集めている。  
49万冊の図書資料、233万件の書誌情報を収集。国内外との情報交換を積極的に行うとともに、サブジェクトライブラリアン(SL)制度、コンピュータによる情報検索など、本学の情報発信基地になっている。予習や復習、またレポート作成などでLCを充分に利用してほしい。

■開館時間  
月曜日～金曜日 ……8:30～22:00  
土曜日 ……………8:30～17:00  
日曜日 ……………10:00～17:00  
※LCの開館日時については、インフォメーションカウンターまたはホームページで確認してほしい。

**インフォメーションカウンター 1F**  
展示室やAV室、グループ閲覧室などの館内施設の利用予約やOHPなどの機器利用の申し込み、その他総合案内。

**総合フロア 2F**  
一般的な教養図書や、基礎的な教育・研究に対応する図書が約3万冊ある。放送大学の教材もある。

**レファレンスカウンター/学習支援デスク/ライティングセンター 2F**  
SLが、各種学習相談や問い合わせに応えている。ライティングセンターでは、文章表現力の向上を支援している。

**高専図書コーナー 2F**  
高専生のレベルに合わせた英語図書が揃っている。

**検索コーナー 2F**  
LCの中のすべての情報を検索できるコンピュータを設置してある。なお、使用後は整理整頓を心掛けてほしい。

**CD-ROMコーナー 2F**  
CD-ROMやDVDなどの電子媒体とそれを閲覧するコンピュータを設置してある。貸出可能なものもあるので、詳しくはレファレンスカウンターに問い合わせしてほしい。

**資格・就職コーナー 2F**  
各種資格試験や検定試験の参考書・問題集、また就職活動の参考になる図書が数多く置いてある。

**ブラウジング/新聞コーナー 2F**  
気軽に閲覧できる雑誌・別冊・教育雑誌などがある。また、北海道から沖縄までの全国の地方紙など50余紙を閲覧することができる。

**マルチメディア考房 2F**  
本誌136ページ参照

**PMC(ポッドキャスト/ミュージック/コレクション) 3F**  
本誌137ページ参照

**研究・AVフロア 4F**  
AVIS(オーディオ・ビジュアル・インストラクションシステム)では、約10,000巻のAV資料を視聴できる。  
■利用時間 平日/8:30～21:45  
土曜日/8:30～17:00  
日曜日/10:00～17:00

インターネット上でもAVISを利用することができる。  
<http://web.avis.kanazawa-it.ac.jp/avis/>

**分野別フロア 5F～10F**  
工学系各専門分野の図書が各フロアに構築してある。各フロアにはグループ閲覧室も設けられていて、ゼミなどに利用できる。

5階	情報工学系、経営管理工学系
6階	電気工学系、電子・通信工学系
7階	機械工学系、資源・エネルギー工学系
8階	力学応用系、建設工学系、材料工学・加工工学系
9階	環境・都市工学系、建築計画・デザイン系
10階	化学・バイオ系、生命・心理系

**自習室(7・102) 1F**  
7号館1階の自習室は、365日24時間利用することができる。ただし、入室には終日利用者カード(学生証)が必要。案内には、情報コンセント、プリンタなどが設置されており、自由に使用できる。なお使用後は、整理整頓に心掛けてほしい。

(出典 「学生便覧 2005」P.134)

情報処理サービスセンター（資料 2 - 1 - - 6）

（パソコン室のパソコン管理支援、ハード、ソフトウェア保守）

パソコン室の管理運営については、情報教育部会における担当者と情報処理サービスセンターのスタッフとの連携において、その運用体制を決定し実施されます。

具体的な運用体制として、パソコン室では、学生にアカウントを割り振り、サーバ上に学生一人ひとりの利用環境を構築しています。また、パソコンの共同利用の利便性を高めるために Reborn Card（復元ツール）を利用しており、再起動すると初期設定状態に戻るよう設定し、前の利用者記録が残らないようになっています。

（ネットワークインフラ、サーバの計画、管理運営）

本校では、コンピュータ演習室、マルチメディア演習室、多目的実験室（無線 LAN）各研究室、実験室等に学内ネットワークを整備し、円滑な授業運営を行っています。また、教員室、事務局においても、ネットワークが整備されており、教員が担当する学事運営業務を行っています。また、サーバ面においては、基本的には情報処理サービスセンターにおいて一括管理を行う方針となっていますが、本校において、スムーズな授業運営を行うために、情報処理サービスセンターとの連携において、本校独自のメールサーバ（パソコン教室でのみ利用可能）や、学生のデータ保存領域を確保するファイルサーバを設置し運用しています。

これらは、本校における情報教育の充実を図る計画において、情報処理サービスセンターとの調整を行い、随時整備されてきたものです。なお、大学との共用施設内には利用できる情報コンセント環境が整備されており、学生個人の所有パソコンも情報処理サービスセンターの行う情報倫理学習コースを受講し、修了テストに合格すると利用することができます。また、電子メールアドレスを申し出て登録することにより利用することが可能です。

（学籍、成績等の学事運営システムの開発と改良ならびに運用）

高専事務局を中心に、教務係、学生系の各教員が携わる学事運営を円滑に実施するために独自のシステムを開発し、そのシステムの管理を行っています。また、必要に応じて学事運営に携わる各教職員から、システムに対する問題点やニーズを収集すると共に、システムの改良を行っています。

(資料 2 - 1 - - 6)

「情報処理サービスセンター」

## 情報処理 サービスセンター

6号館 240室



●ネットワークの利用…6号館 240室

金沢工科大学園のキャンパスには、ギガビットのバックボーンを核に高速ネットワークが構築されている。

ネットワーク内にはIBMの大型計算機(IBM Zシリーズ)や大容量のサーバーをはじめ、教育・研究用のワークステーションや高性能パソコン約2,000台が配備され、ネットワークに接続されている。

また、キャンパス内随所に6,000個を超える情報コンセントが設けられ、教材をはじめ、修学に必要なさまざまな情報をサーバーからダウンロードしたり閲覧することができる。

IT(情報技術)の驚異的な発展を背景に情報通信社会の変革が地球規模で進む中、情報処理サービスセンターでは、コンピュータやネットワークならびにマルチメディアを活用した先進的な教育や研究環境を提供するため積極的な支援を行っている。

詳しい情報：<http://mercury.kanazawa-it.ac.jp/dpc/>

**ネットワークの利用**

ネットワークを利用するには、情報倫理(インターネットを活用する上でのルールやマナー)に関する学習コース(INFOSS)を受講する必要がある。受講申込みは、国際コミュニケーション情報工学科科長まで。

INFOSSを受講し修了すると

- 学内ネットワークへのパソコン接続
- メールサーバーの利用
- VPNによるネットワーク接続
- PPPによるネットワーク接続

が可能になる。

※利用するにあたって別途申請手続きが必要

■学内ネットワークへのパソコン接続

各自のノートパソコンを学内に設置された情報コンセントにつなぐ事で、学内ネットワークへ接続することができる。ネットワークへ接続することで、学内外のWebサーバーにアクセスして情報を得たりすることができる。

●情報コンセントの設置場所

- 1号館 中2階ラウンジ
- 6号館 2階マルチメディア考房
- 7号館 自習室
- 8号館 ラウンジ
- 夢考房 etc.

(出典 「学生便覧 2005」P.138)

### 自己開発センター

(資格取得教育の支援、資格の相談や講習会に利用)

資格指導部会には、各学科の主任がメンバーとして参画しており、自己開発センターとの連携のもと資格取得に関する情報を収集しています。(資料 2 - 1 - - 7) また、各学科において実施される授業と資格取得の関連について、自己開発センターに対して情報を提供しています。

これらの連携により、授業との連携の中において、以下の資格について資格取得支援を実施しています。

- ・ 実用数学技能検定
- ・ 日本語文章能力検定試験
- ・ 漢字能力検定
- ・ 電気主任技術者第 3 種および 2 種
- ・ 3 級機械設計技術者
- ・ ボイラ技士
- ・ 工事担当者試験
- ・ 情報技術検定試験
- ・ 基本情報処理技術者試験

(資料 2 - 1 - - 7)

「自己開発センター」



在学中の資格取得のためにさまざまなバックアップを行っている。

「資格は実力の証明」「学歴は無限の可能性への保証」という言葉があるが、資格は就職活動の際、心強い味方となってくれるはず。

TOEIC(トリーック)に代表されるような語学系、国家・地方公務員や秘書技能検定、宅地建物取引主任者等の実務系資格および機械設計技術者、電気主任技術者、情報処理技術者、公害防止管理者等の専門資格など、幅広い資格取得をサポートしていることも特徴だ。

詳しい情報：<http://www.kitnet.jp/shikaku/>

**利用時間**

月曜日～金曜日…… 8：30～17：00  
土曜日…………… 8：30～13：00

**自己開発センターで取り扱っている資格試験**

- 公務員(国家・地方)
- 機械関係
- 電気・電子関係
- 情報関係
- 環境・土木関係
- 高度技術系
- 語学関係
- 実務関係
- 認定講習



在学中に資格を取ろう。

**■自己開発センターで取り扱っている資格試験**

- 一般公務員
    1. 国家公務員、地方公務員
  - 機械関係
    2. 危険物取扱者
    3. ボイラー技士
    4. 機械設計技術者
  - 電気・電子関係
    5. 電気主任技術者
    6. 電気工事士
    7. 電気通信主任技術者
    8. 工事担任者
    9. 陸上無線技術士
    10. 特殊無線技士
    11. ラジオ・音響技能検定
    12. 家電製品エンジニア・アドバイザー
    13. 消防設備士
  - 情報関係
    14. 情報処理技術者
    15. 画像情報技能検定 (CG/マルチメディア/画像処理)
    16. デジタル技術検定
    17. 情報技術検定
  - 環境・土木関係
    18. 公害防止管理者
    19. 火薬類保安責任者(製造・取扱)
    20. 施工技術者試験
  - 高度技術系
    21. 技術士補
  - 語学関係
    22. 実用英語技能検定
    23. 工業英語能力検定
    24. TOEIC
    25. ドイツ語技能検定
    26. 日本漢字能力検定
    27. 日本語文章能力検定
  - 実務関係
    28. 宅地建物取引主任者
    29. 秘書技能検定
    30. 簿記検定(日商)
    31. カラーコーディネーター検定(東商)
    32. 福祉住環境コーディネータ(東商)
    33. パーソナルコンピュータ利用技術認定
    34. CAD利用技術者
    35. 数学技能検定
    36. 照明コンサルタント
  - 認定講習
    37. ガス溶接技能者
    38. 2級ボイラー技士(受験資格取得)
    39. 電気取扱業務安全衛生特別教育
- ※資格の詳細については、LICENSE(各種資格について)を参照してください。

(出典 「学生便覧 2005」 P.141)

### 工学設計教育センター（夢考房）

#### （授業との関連における利用）

夢考房では、さまざまな機械を利用するにあたり、夢考房ライセンス（安全技能講習）の受講が義務づけられています。（資料 2 - 1 - - 8）学生は、授業（機械工学科の創造実験）の中において、これらの安全技能講習（各種加工機械等の取り扱い技術を身につける講習会）を受講し、授業ならびに課外におけるさまざまなモノづくりに取り組む場として夢考房を有効に活用しています。

また、同じく機械工学科における創造実験において、モノを作るにあたっての安全性の理解を深めるため、夢考房等でのヒヤリハットに関する事例等を収集し、授業の中で学生に伝えていきます。

#### （創造力を養う空間としての利用）

学生の課外における積極的な学習を支援する仕組みとして、モノづくりを中心に取り組むハンズオン部を設置しています。ハンズオン部では、部内対抗ロボコンや他校とのロボコン対戦を実施しており、これらの企画・運営に関する情報について夢考房から提供してもらい、円滑な運営を図っています。またハンズオン部の学生は、夢考房に在籍する技師や夢考房のプロジェクトメンバー等から技術的なアドバイスを受ける等、緊密な連携が図られています。

その他、夢考房では学生のプロジェクト活動を推進しています。この夢考房プロジェクトには、大学の学生が主体となって参画していますが、一部の高専の学生が参加しているプロジェクトもあり、大学、高専の学生同士の交流の場としても位置づけられています。

(資料 2 - 1 - - 8)

「工学設計教育センター(夢考房)」



夢考房は、自由に利用できる作業環境。ものづくりの喜び、失敗の経験、試行錯誤の数々、仲間達との議論は工学の原点だ。

**主な機能**

小型機器から大型の工作機械までを取り揃え、多様なものづくりに対応する機能があり、常駐する技師や学生スタッフから適切なアドバイスを受けることができる。また資料作成空間では発表会などで使用するためのプレゼンテーション資料作成ができる。

①自由空間(1階)

個人またはグループで利用できるテーブルを設置し、情報コンセントを備えている。

②作業空間(1階)

金属と木材を材料とした工作ができる機器と道具を準備している。手工具等は工具室に多くの貸出用セットを準備しており、パーツショップにて材料を販売している。

③資料作成・編集空間(1、2階)

調査・研究成果を第三者に効果的にプレゼンテーションする資料作成機器を準備している。作成できるものは、A0サイズまでのポスター、カラーOHP、カッティングシートの加工等で、発表用のパソコンソフトでデータ編集もできる。

④多目的教室(2階)

OHP、パソコンプロジェクターを備えた教室があり、各種講習会、会議、打ち合わせに利用できる。

⑤各種工作機械の講習(1階)

工作用の機械として、旋盤、フライス盤、ボール盤、板金、電気関係機器の使用講習会を定期的に行っている。

⑥バーベキュー・ガーデン

学生・教職員のコミュニケーションを手軽に安く実施できるスペース。最大140名まで利用可能。

**利用方法**

パソコンで受付をすれば、全学生が自由に使用可能。ただし、使用する工具・機械によって「夢考房ライセンス」を取得しなければならないものもある。詳細は夢考房26まで。

**夢考房の利用時間**

月曜日～金曜日……8:40～21:00

土曜日……8:40～17:00

休日……9:30～17:00

詳しい情報や開館日は、HPで確認できる。

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/yumekobo/>

**各種サービス**

■夢考房ライセンス(安全技能講習)の受付

夢考房26・41で、各種工具や工作機械を利用する場合、「夢考房ライセンス」を取得する必要がある。旋盤やフライス盤、板金など、使用する工具・機械によってさまざまなコースがある。詳細は夢考房26まで。

■バーベキュー・ガーデンの予約

予約の受付は夢考房26で行っている。

ぶらりと訪ねて、  
気軽に創作。  
サポート万全、夢考房26。

**HOBBY**

趣味

- Tシャツ
- ポストカード
- 名刺
- ステッカー
- 模型製作
- 自転車修理

**BUILD**

工作

- ものづくり相談
- 木材工作
- 金属工作

**PRESENTATION**

プレゼンテーション

- カラーコピー
- 企画書・計画書
- パネル・ポスター
- レポート・報告書
- ラミネート加工

**COMPUTER**

コンピュータ

- プリンター
- スキャナ

(出典 「学生便覧 2005」 P.142)

### 工学基礎教育センター（数理教育の学習支援）

工学基礎教育センターでは、大学の学生を中心に、数理教育に対して個別指導を展開し、課外における充実した学習環境を提供しています。数理教育部会は、工学基礎教育センターの教員と緊密な連携を図り、学習支援におけるノウハウ（運営方法や指導方法）等の情報を提供してもらいながら、本校における学生の学習支援の充実に寄与しています。

具体的には、通常のオフィスアワーの時間以外に質問教室を設け、気軽に学生が質問できる環境を構築し、学生の自学自習への意欲を高めています。

### 穴水湾自然学苑（資料 2 - 1 - - 9）

能登半島の穴水町に穴水湾自然学苑が設置されています。ここでは、「人間と自然」の科目を実践する教育の場として活用されています。「人間と自然」の教育内容およびスケジュールの決定については、穴水湾自然学苑の教職員と緊密な連携の基で決定されています。例えば、研修プログラムの中のグループ討議では、学生がチームを構成し、その中で、さまざまなテーマに対して討議（ブレインストーミング）を行い、コミュニケーションスキル（リーダーシップ、協調性、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキル）を身につけると共に、エンジニアとして必要な人間力を養うプログラムです。これらは、大学における「人間と自然」において既に実施されているプログラムであり、学生の人間力向上において効果を発揮している点から、穴水湾自然学苑との連携において、本校にも導入されるようになりました。また海洋活動は、カッターによる操艇訓練を行い、チームワークの重要性を体験する機会としています。

（資料 2 - 1 - - 9）

「穴水湾自然学苑」



・研究支援機構について（資料 2 - 1 - - 10）

研究支援機構は学園の研究活動を支援し、推進することを目的に組織され、本校の教員に対する支援及び本校の創造技術教育研究所の活動支援を行っています。また本校教員の学位取得にかかる留学等の支援も行っています。

（資料 2 - 1 - - 10）

「金沢工業大学研究支援機構規程」

（目的）

第 1 条 金沢工業大学研究支援機構(以下「研究機構」という)は、本学園に設置される研究所、研究プロジェクトの他、本学園教職員すべての研究活動を総合的に推進することを目的とする。

（事業）

第 2 条 研究機構は前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 研究所及び研究プロジェクトの組織化と支援
- (2) 産学官研究交流の活性化及び国際的学術研究の推進
- (3) 研究者養成による人材の拡充
- (4) 国内外の教育研究機関への研究者派遣
- (5) 学内外での共同研究の推進及び学外研究者の招聘
- (6) 研究環境の整備・充実
- (7) 受託(寄附)研究等の推進
- (8) 学会活動等の支援
- (9) 研究関連情報の収集及び提供
- (10) 研究成果の公表並びに社会還元
- (11) ベンチャービジネスの育成
- (12) 研究会、講演会、講習会、シンポジウム及び公開講座等の開催
- (13) その他前条の目的達成に必要な事業

（出典「金沢工業高等専門学校関係規則集」P.122 抜粋）

（分析結果とその根拠理由）

・本校学生が大学と共用による充実した施設設備を利用し、また学園の人的サポートを受けて、教育目的の達成や学生の自発的活動を推進する体制が整備されていると考えています。

観点 2 - 2 - 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点にかかる状況)

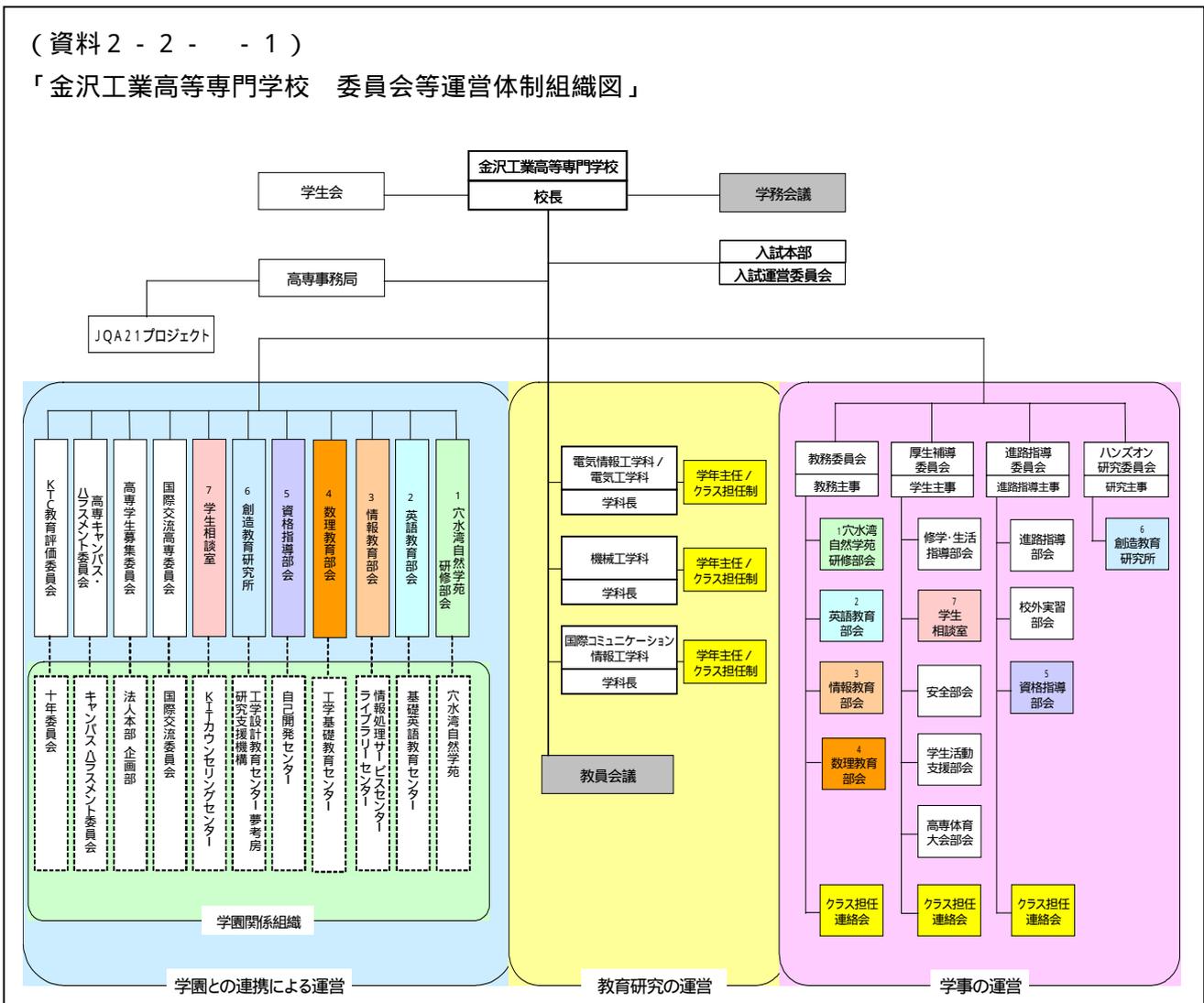
- ・校長を議長とする学務会議において、教育課程全体の企画調整と編成が行われています。また、より精密な議論が必要とされる場合は、校長の指示のもと「教務委員会」等において十分討議が尽くされるような仕組みを有しています。
- ・学務会議は、規程上毎月の開催としていますが、実状は週1回程度の開催となっており、学務全般の計画と運営を審議しています。教務委員会は、学務会議で決定された事項について運営方法を策定する委員会として適宜開催しています。具体的には、各教科の内容充実を図る教育部会の運営、シラバスの確認、時間割や担当者の割付、成績処理、進級判定の日程などの実務運営管理と教務スケジュール管理を担当しています。

(分析結果とその根拠理由)

学務会議を中心とする各種委員会等が整備され、活動が行われていると考えています。(資料 2 - 2 - 1)(資料 2 - 2 - 2)(資料 2 - 2 - 3)(資料 2 - 2 - 4)(資料 2 - 2 - 5)(資料 2 - 2 - 6)(資料 2 - 2 - 7)

(資料 2 - 2 - 1)

「金沢工業高等専門学校 委員会等運営体制組織図」



(資料2 - 2 - - 2)

「委員会等担当者表」(平成17年度)

所属学科	氏名	学務会議	教務委員会	教務係	厚生補導委員会	学生係	進路指導委員会	ハンズオン研究委員会	クラス担任連絡会	担当クラス名
電気情報工学科	堀岡雅清	校長								
電気情報工学科	香林利男	学科長(D,E)			委員		委員		副担任	D1
電気情報工学科	下谷俊昭								担任	D3
電気情報工学科	直江伸至		委員					委員	担任	D2
電気情報工学科	表義憲	進路指導主事					委員長		副担任	E4A
電気情報工学科	南出章幸							委員	担任	E4A
電気情報工学科	林孝広								副担任	E5A
電気情報工学科	石黒泰治						委員		担任	E5A
電気情報工学科	土地邦生							委員	副担任	D3
機械工学科	山田弘文	研究主事	委員					委員長	副担任	M3
機械工学科	天日三知夫		委員						副担任	M1
機械工学科	杉森勝								担任	M4
機械工学科	松井洋						委員		担任	M5
機械工学科	堀隆一								担任	M3
機械工学科	金光学	学科長(M)			委員		委員		副担任	M5
機械工学科	古屋栄彦								副担任	M2
国際コミュニケーション情報工学科	榊原東一郎							委員	副担任	E4B
国際コミュニケーション情報工学科	田村景明				委員		委員		担任	E5B
国際コミュニケーション情報工学科	村本紘		委員						担任	C3
国際コミュニケーション情報工学科	今澤明男	学科長(C)	委員				委員		副担任	C1
国際コミュニケーション情報工学科	海法俊光	学生主事					委員長			
国際コミュニケーション情報工学科	川崎順治								担任	E4B
国際コミュニケーション情報工学科	中川秀敏		副委員長						副担任	E5B
国際コミュニケーション情報工学科	中沢政幸		委員					委員	副担任	C2
国際コミュニケーション情報工学科	D.ゲイロード							委員		
国際コミュニケーション情報工学科	坂倉忠和							委員	担任	C2
一般科目	壽時廣		副委員長							
一般科目	大慶清				委員				担任	D1
一般科目	作宮和泉						副委員長	委員		
一般科目	半田敬								副担任	C3
一般科目	青木敏彦								副担任	M4
一般科目	向井守		委員							
一般科目	村田俊也					副委員長			担任	M2
一般科目	大原しのぶ									
一般科目	大崎富雄								担任	M1
一般科目	氏家亮子									
一般科目	宮野純光									
一般科目	佐藤守	教務主事	委員長					副委員長		
一般科目	原孝義				委員				担任	C1
一般科目	松下臣仁									
一般科目	佐伯昭彦						委員		副担任	D2
一般科目	陳?									
事務局	宮西瑞子	事務局長	委員		委員		委員	委員		
事務局	千川康夫				委員					

(資料 2 - 2 - - 3 )

「金沢工業高等専門学校学務会議規程」

## 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 学 務 会 議 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校学務会議（以下「学務会議」という。）について必要な事項について定める。

第 2 条 学務会議は、校長のほか次の者をもって構成する。

- (1) 副校長
- (2) 教務主事、学生主事、研究主事及び進路指導主事
- (3) 電気情報工学科科長、機械工学科科長及び国際コミュニケーション情報工学科科長
- (4) 事務局長

第 3 条 学務会議は、次の事項について審議する。

- (1) 教育研究の質的向上に関する事項
- (2) 学則、その他教育研究に係る重要な規則に関する事項
- (3) 教育課程編成に関する事項
- (4) 学生の入学、退学、進級、休学、卒業の認定及び留学に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 認証評価機関による第三者評価に関する事項
- (8) その他、校長からの諮問事項

第 4 条 学務会議は毎月開催するものとし、校長が招集する。又、校長が必要と認めたときは随時、開催することができる。

2 学務会議の議長は、校長が当たり、会務を主宰する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

第 6 条 学務会議の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後、これを保管する。

### 附 則

- 1 この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から改正施行する。

( 出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.74 )

(資料 2 - 2 - - 4)

「金沢工業高等専門学校教務委員会規程」

## 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 教 務 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 教務主事、教務副主事及び学科長
- (2) 教務主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 教務運営の方針及び教育実施状況の把握に関する事項
- (2) 教育内容の改善及び授業満足度評価に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 教務主事から提案された事項
- (6) その他、教育運営全般に関する事項

第 4 条 委員会は、教務主事が招集し、その議長を務める。

2 教務主事に支障があるときは、教務副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

### 附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の教務委員会申合せは廃止する。

( 出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.75 )

(資料 2 - 2 - - 5)

「金沢工業高等専門学校厚生補導委員会規程」

## 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 厚 生 補 導 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校厚生補導委員会(以下「委員会」という。)について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 学生主事、学生副主事及び学科長
- (2) 学生主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 学生の厚生補導に関する事項
- (2) 校長から諮問された事項
- (3) 学務会議から付託された事項
- (4) 学生主事から提案された事項
- (5) その他、学生の修学全般に関する事項

第 4 条 委員会は、学生主事が招集し、その議長を務める。

2 学生主事に支障があるときは、学生副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会で審議された内容及び報告において知り得た個人情報については、その秘密を漏らしてはならない。

第 8 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

### 附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の厚生補導委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.78)

(資料 2 - 2 - - 6)

「金沢工業高等専門学校進路指導委員会規程」

## 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 進 路 指 導 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校進路指導委員会(以下「委員会」という。)について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 進路主事、進路副主事及び学科長
- (2) 進路主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長の指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 進路指導の方針及び進路指導状況の把握に関する事項
- (2) 進路開拓に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 進路主事から提案された事項
- (6) その他、進路指導全般に関する事項

第 4 条 委員会は、進路主事が招集し、その議長を務める。

2 進路主事に支障があるときは、進路副主事が議長の職務を代行する。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

### 附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。なお本規程の施行により従前の進路指導委員会申合せは廃止する。

(出典 「金沢工業高等専門学校関係規則集」 P.79)

(資料 2 - 2 - - 7)

「金沢工業高等専門学校ハズオン研究委員会規程」

## 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 ハ ン ズ オ ン 研 究 委 員 会 規 程

第 1 条 この規程は、金沢工業高等専門学校ハズオン研究委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定める。

第 2 条 委員会は、次の者を委員として構成する。

- (1) 研究主事
- (2) 研究主事又は学科長の推薦に基づき、校長が指名する者
- (3) 事務局長
- (4) その他、校長が指名する者

第 3 条 委員会は、次の事項について審議する。

- (1) ハズオン教育の実施方針及び実施状況の把握に関する事項
- (2) 創造実験の実施に伴う施設設備の充実と学習内容に関する事項
- (3) 校長から諮問された事項
- (4) 学務会議から付託された事項
- (5) 研究主事から提案された事項
- (6) その他、ハズオン教育全般に関する事項

2 ハズオン教育の手法及び実施計画の立案については、金沢工業高等専門学校創造技術教育研究所に付託する。

第 4 条 委員会は、研究主事が招集し、その議長を務める。

第 5 条 議長は、必要があると認めるときは、研究委員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

2 前項の規定にかかわらず、校長は、随時、委員会に出席することができる。

第 6 条 議長は、委員会で審議された事項をとり纏め、学務会議に報告する。

第 7 条 委員会の事務は、事務局が行う。

2 事務局は、会議の議事録を作成し、議長の確認を得た後これを保管する。

### 附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。なお本規程の施行により従前の研究委員会申合せは廃止する。

( 出 典 「 金 沢 工 業 高 等 専 門 学 校 関 係 規 則 集 」 P.80 )

観点 2 - 2 - 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が機能的に行われているか。

(観点にかかる状況)

- ・学務会議や教務委員会において、一般科目及び専門科目の代表者が出席し適宜教員間の連携に務めています。特に、本校が特色とする情報教育、穴水湾自然学苑教育、ハンズオン教育、資格取得教育等の取り組みは、各教育部会において推進が図られています。(資料 2 - 2 - - 1)
- ・教員間の連携を図るために、授業参観(見せ合い授業)実施や、教育成果発表会を開催しています。(資料 2 - 2 - - 2「授業参観(見せ合い授業)」)、(資料 2 - 2 - - 3「『教育成果発表会』目次」)
- ・一般科目と専門科目の連携を実践する科目として「創造実験」を柱とするカリキュラムを編成し、創造技術教育研究所の取り組みにより、その具体化を推進しています。(資料 2 - 2 - - 4「『創造技術教育』目次」)
- ・数学、物理は、使える数理知識の習得を目的に、創造実験との連携を図り、数理知識の定着を目指しています。
- ・インターネットを利用した専門科目の情報教育を英語科の教員が担当しています。
- ・校長の方針のもと、教務主事を中心に担当者が連携して、情報教育においては情報処理サービスセンターとライブラリーセンター、穴水湾自然学苑教育においては穴水湾自然学苑と、それぞれ協議し教育の充実を図るべく運営しています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・学務会議や教務委員会における審議を通じた連携と共に、本校が実施している特色ある教育の取り組みは、ハンズオン研究委員会の活動や教育支援機構の各センターの支援により、十分な連携が図られていると考えています。
- ・教務委員会の各部会の活動や創造技術教育研究所の活動によって、教員間の連携が図られていると考えています。

(資料 2 - 2 - - 1)

「平成17年度校務担当者一覧」

平成17年度 校務担当者一覧

所属学科	職名	氏名	学務会議	学科長	教務係	学生係	教務委員会	穴水湾自然学苑研修部会	英語教育部会	情報教育部会	数理教育部会	厚生補導委員会	修学・生活指導部会	学生相談室	安全部会	学生活動支援部会	ロボコン委員会	クラス担任連絡会	進路指導委員会	進路指導部会	校外実習部会	資格指導部会	ハンスオン研究委員会	創造技術教育研究所	一般教育部会
電気情報工学科	教授	堀岡雅清																							
電気情報工学科	教授	香林利男																							
電気情報工学科	教授	表義憲																							
電気情報工学科	教授	下谷俊昭																							
電気情報工学科	教授	直江伸至																							
電気情報工学科	助教授	林孝広																							
電気情報工学科	助教授	南出章幸																							
電気情報工学科	講師	土地邦生																							
電気情報工学科	講師	石黒泰治																							
機械工学科	教授	金光学																							
機械工学科	教授	杉森勝																							
機械工学科	教授	天日三知夫																							
機械工学科	教授	堀隆一																							
機械工学科	教授	松井洋																							
機械工学科	教授	山田弘文																							
機械工学科	助教授	古屋栄彦																							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	今澤明男																							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	海法俊光																							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	榊原東一郎																							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	田村景明																							
国際コミュニケーション情報工学科	教授	村本紘																							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	川崎順治																							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	ドリンゲイト																							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	中川秀敏																							
国際コミュニケーション情報工学科	助教授	中沢政幸																							
国際コミュニケーション情報工学科	講師	坂倉忠和																							
一般科目	教授	青木敏彦																							
一般科目	教授	作宮和泉																							
一般科目	教授	壽時廣																							
一般科目	教授	大慶清																							
一般科目	教授	半田敬																							
一般科目	教授	向井守																							
一般科目	教授	佐藤守																							
一般科目	助教授	氏家亮子																							
一般科目	助教授	大崎富雄																							
一般科目	助教授	大原しのぶ																							
一般科目	助教授	佐伯昭彦																							
一般科目	助教授	陳 璋																							
一般科目	助教授	原 孝美																							
一般科目	助教授	村田俊也																							
一般科目	講師	ブルースゲイト																							
一般科目	講師	アム・サージェント																							
一般科目	講師	ル・ベリナー																							
一般科目	講師	ケトマダ																							
一般科目	講師	松下臣仁																							
一般科目	講師	宮野純光																							
一般科目	講師	マコーマク																							
穴水湾自然学苑	講師	阿保和久																							
穴水湾自然学苑	講師	長谷川政秀																							
穴水湾自然学苑	講師	村中博文																							
事務局		宮西瑞子																							
事務局		千川康夫																							

( :委員長 :委員 :正 :副)

(資料 2 - 2 - - 2)

「授業参観（見せ合い授業）」

「魅力あふれる授業」を求めて



授業を参観する金沢高専の先生方

金沢高専で「見せ合い授業」

金沢高専は、初めての「見せ合い授業」を12月7日から20日の間に5回実施した。参加した教員は延べで84名であった。

この試みは、各教員が「分かりやすく、魅力ある授業」を行うことで、学生の授業満足度をより向上させることを目的とするものである。

方法としては、5名の担当教員がそれぞれ異なる日に授業を実施し、これを一般教員が参観し、授業終了後、それらの担当教員と参観教員間で意見交換する方式をとった。

5名の教員が担当

今回の担当として、金光学、今澤明男、香林利男、氏家亮子、原孝美の各教員を選び、8月中に決定した。その後実施に伴う時間割の調整を開始した。

一方、授業は、多くの教員が参観できるよう放課後の時間帯に正規の授業扱いで実施した。各参観教員には少なくとも二つの授業を参観することを義務づけた。

ところで、同僚教員に見られながら授業を行う担当教員は、かなり緊張したようである。一方、受講する学生も参観教員を意識してか、1日の授業を終え疲れているにもかかわらず、真剣に取り組んでいる姿が印象的だった。

各授業について「参考になったか、否か」について5段階に分けたアンケートをとった。この結果から、全授業について、評価2の「かなり参考になった…」が1位(46%)、評価3の「参考になった…」が2位(30%)、そして 評価1の「非常に参考になった…」が3位(20%)であった。これらポジティブな評価のトータルは96%に達しており、5回の見せ合い授業は参観教員のほとんどに役に立ったと結論づけることができる。

なお、今回の参観者による「授業アンケート」には授業内容について自由記述の欄を設けたが、そこには多くの感想や意見が記されていた。それらの記述内容を含めた詳しい分析の結果は別に冊子をつくり報告する予定である。(高専 杉森)

【日程と担当者等】

回	実施日	曜日	時限	担当者	クラス	教室	科目名
1	12月7日	火曜	8	金光	M3	M3教室	材料力学Ⅰ
2	12月14日	火曜	8	今澤	E5A E5B	合同講義室	システム工学
3	12月17日	金曜	7	香林	D2	D2教室	電気回路Ⅰ
4	12月20日	月曜	7	氏家	D1	D1教室	基礎数学Ⅱ
5	12月20日	月曜	7	原	M1	M1教室	物理学Ⅰ

(出典 「旦月会」 平成17年2月号 P.14)

(資料 2 - 2 - - 3)

『教育成果発表会』目次

目 次	
<b>平成 1 6 年度教育成果</b>	
<b>創造実験</b>	
創造実験 I	1
創造実験 II	5
創造実験 III	7
創造実験 IV	9
<b>英語教育</b>	
コンピュータ演習 I	11
留学教育	13
<b>学科教育現況及び成果</b>	
電気情報工学科	16
機械工学科	19
国際コミュニケーション情報工学科	21
<b>出前教育、担任教育、部活動指導</b>	
中学生対象出前授業	24
クラス担任教育	27
部活動指導	31

( 出典 「教育成果発表会」講演論文集 )

(資料 2 - 2 - - 4)

『創造技術教育』目次

一 目次 一			
(創造技術教育第5巻1号)			
(巻頭言)			
大学評価・学位授与機構による本校の認証評価	顧問 (校長)	堀岡 雅清	1
(論壇)			
教育効果の運動性と即効的期待	所長	山田 弘文	2
(ショートレポート)			
イントラネットを利用した情報倫理教育の導入 —金沢高専・電気情報工学科の情報倫理教育—	所員	南出 章幸	3
2値単純マルコフ系列を用いた酔歩における補講長分布に関する母関数	所員	坂倉 忠和、林 彬	6
(技術レポート、創造技術教育)			
【特別寄稿】			
金沢高専のインターンシップの取り組み		堀 隆一	9
ハンズオン部におけるロボコン指導		古屋 栄彦	13
(論文)			
【特別寄稿論文】			
資格モデルにおける視点・視野の客観的評価尺度 $\eta^2$ に関する検討 金沢工業高等専門学校	川崎 順治、金沢工業大学 (株)創研 加藤 恭子、飯島 泰蔵	武田康佑、 飯島 泰蔵	17
固定型等価近似法の画像サイズにおける窓サイズ 金沢工業大学 北村 直人	金沢工業高等専門学校 (株)創研 加藤 恭子、飯島 泰蔵	川崎 順治	23
Robust Design of Lamination Flexural Properties of CFRP 金沢工業高等専門学校	金光 学、中安 秀俊		29
【所員オリジナル論文】			
金沢高専におけるネットワークを利用した学習支援環境構築の提案	所員坂倉 忠和、榊原東一郎、中沢 政幸		35
プロジェクト型水質調査実験の実践	所員 直江 伸至、所員 南出 章幸、金沢工業大学 竹俣 一也		41
金沢高専における小中学生のための出前授業の実施	所員 南出 章幸、直江 伸至		45
インターンシップと連携した新しい創造設計教育に関する1考察	所員 山田 弘文		51

(出典 「創造技術教育」研究所報告)

観点 2 - 2 - 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点にかかる状況)

- ・本校の事務局職員は3名で、職務内容は主に庶務的業務を行っています。(資料 2 - 2 - - 1) 一方、教務業務に関しては、教務主事を長とする教務系の教員が、学生業務に関しては学生主事を長とする学生系の教員が行うことになっています。また、クラス担任や部活顧問によって、日常的な学生相談の体制を構築しています。その他の施設管理や財務管理といった管理運営業務は法人本部が一括して行っています。
- ・教育支援機構および研究支援機構が学園に設置され、本校の教育及び研究活動全般の支援が行われる体制が整備されています。

(分析結果とその根拠理由)

- ・本校は、創立間もない頃より教員が事務的業務にも参画する現在の体制で運営が行われており、教

員と学生、教員と職員、教員相互の関係において、学務運営の当事者としての自覚と責任が醸成され、校務の適正と円滑化が推進されていると考えています。

- ・ 修学支援体制の中核をなす仕組みとして、クラス担任制（各クラスに担任と副担任を配置）を有しており、各担任は、学生の意見や要望を聞き、また、生活面での相談相手になるなど、教育活動と生活面における円滑化を推進しています。
- ・ 教育支援機構は、教員が行う教育活動の支援や本校の教育課程、学生の自発的学習を支援する仕組みとして適切に機能しており、本校の教育活動を推進していると考えています。

（資料 2 - 2 - - 1）

「高専事務局の基本業務」

#### 第 4 条 高専事務局

校長の掲げる教育方針のもと、教育の向上と発展を目的とした円滑な教育運営を図り、着実な教育成果をあげることが目標とする。

< 高専事務局の基本業務 >

- (1) 高専諸行事に関する業務
- (2) 高専の庶務全般に関する業務
- (3) 修学支援に関する業務
- (4) 課外活動の支援に関する業務
- (5) 入試及び進路に関する業務

庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 高専の行事、式典等の実施に関する事項
- (2) 工場見学、修学旅行等の実施に関する事項
- (3) 高専の庶務全般に関する事項
- (4) 各種委員会の予算管理に関する事項
- (5) 高専の公印の押印、保管等に関する事項
- (6) 高専の公文書の受付、発送、記録、保管に関する事項
- (7) 育友会の運営に関する事項
- (8) 学生便覧、学習支援計画書等の編集、発行に関する事項
- (9) 学籍の管理に関する事項
- (10) 奨学金等に関する事項
- (11) 学生の健康管理に関する事項
- (12) 学生証の交付及び各種証明書の発行、管理に関する事項
- (13) 学生会等の課外活動の支援、指導に関する事項
- (14) 募集活動に関する事項
- (15) 入学試験に関する事項
- (16) 就職、進学等の進路に関する事項

（出典「金沢工業高等専門学校規則集」P.36「事務分掌規程」抜粋）

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## (優れた点)

- ・本校は入学定員が135名と小規模ですが、金沢工業大学との施設、設備の共用や、学園の人的サポートを受けて、充実した教育環境を学生に提供しています。
- ・事務的業務に教員が参加することから、教員と学生、教員と職員、教員相互のコミュニケーションが十分に図られています。

## (改善を要する点)

- ・国際コミュニケーション情報工学科の名称が分かりにくいとする意見もあり、今後の検討課題と考えています。

## (3) 基準 2 の自己評価の概要

本校の学科構成は、「機械工学科」、平成15年度の学科改組により名称変更された「電気情報工学科」及び同年に設置された「国際コミュニケーション情報工学科」からなり、教育の目的に沿って体系的に編成されています。さらに、学園に教育・研究活動を支援するための組織として、「教育支援機構」および「研究支援機構」が置かれ、その下に各種センターが設置されています。「ライブラリーセンター」は、文献の検索など学生の積極的な情報収集の場や、少人数授業における教室として利用されるほか、デジタル技術を活用する「モノづくり」の場としての機能も有しています。「情報処理サービスセンター」は情報機器の環境整備や管理運営等を行っています。「自己開発センター」は資格取得教育の支援や相談・講習会等を実施しています。「工学設計教育センター(夢考房)」は、授業及び課外において様々なものづくりに取り組む現場として活用されています。「工学基礎教育センター」は、数理教育に関する学習支援のノウハウなど情報提供等の役割を担っています。さらに、「穴水湾自然学苑」は、本校が掲げる「人間力」を養うプログラムである「人間と自然」の科目を实践する教育の場として活用されています。これらの諸施設は教育目的を達成する上で適切であり、高度で充実した環境として整備されていると考えています。

教育課程全体を企画・調整する体制として、学校全体の教育課程については学務会議、細部については教務委員会が整備されており、機能しています。一般科目と専門科目の教員の連携については、学務会議や教務委員会で組織的に検討され、機能的に行われています。本校の専任事務職員は少数であります。管理運営、施設・設備等については法人本部が業務を担当し、教育支援機構が教育活動についての支援を行っており、教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しています。

以上のとおり、学科等の構成、及び教育活動等を展開する上で必要な運営体制の状況を総合的に判断すれば、現時点において相応であると考えています。